

野のいちら

秋になると、ちょっとした草原や堤防や山に、小さな赤い実をつけた野いちじくが沢山あつてね、甘ずっぱくとてもおいしかったよ。

今の子のように靴を履いている子なんて一人もいなくて、はだしに草履（わらで作った履き物）ですから、野いちじくのいばら（とげのある小さな木）のとげが、手や足に刺さって血だらけ。それでも小さな赤い野いちじくを見つけると、

「あつた。あつた。」

と大声で喜んで 取つて食べたんですよ。

そしてね。昔の子は、ちょっとした血ぐらいで、泣く子は一人もいなかつたんですよ。